

こんにちは、私は韓国の世宗プログラムに参加しているジョン・シニョンと申します。今日、'私の国から伝えたいこと'について話すためにこの場に立ちました。ここにいらっしゃる皆さんは'韓国'と言えば普通なにを思い出しますか。もしかして'ドラマ'、'k-pop'などの韓流を考えたんじゃないでしょうか。私は私の国、韓国から何を伝えればいいのか悩んだ挙げ句、だんだん人とのコミュニケーションが減って孤独になっていく時代に暖かい心を伝える'韓国の情'について話したいと思いました。

韓国人にとって人間がもともと持っていると言われる'情'は他人の幸せ、苦しみ、悲しみなど、相手の気持になって考える暖かい心を表します。私はここで自分が経験した暖かい情について話したいと思います。皆さん8年前、韓国の'テアン'というところで起きた事故をご存じですか。石油を乗せた船と海上クレーンとの衝突で莫大な量の油が海に流出した事故でした。油が消えるまでは数十年がかかるかも知れないという話を聞いて住民たちは絶望しました。この時、一人ずつ海辺にある油をぬぐい始め、毎日全国から人々が集まりました。その結果、2ヶ月ぐらいの短い間に、ボランティアが約200万人、寄付金が40億円に達しました。あの時、小学生だった私も少しでも手伝うために親と一緒に現場に行ってきました。冷たい風の中で油をぬぐうのは大変でしたが、始めて会った人とも力を合わせて励まし合いながら頑張りました。帰り道に'ありがとう'と手をつかんでくださったおばさんの顔がいまだに忘れられません。あそこに集まった人たちは家族、友だちではなかったかも知りません。しかし、私はボランティアをしながら自分のことではなくてもだれかのために頑張る姿を見て寒い冬でしたけど、暖かみ、韓国の情を感じました。

もちろん困っている人を直接的に手伝うのはとても難しいことかも知れません。しかし、小さい心一つを伝えることだけで相手は勇気をもったり、慰められたり、感謝の気持を感じるかも知れません。私はそれが本当の'暖かみ'、つまり'韓国の情'であると思います。皆さんのそばには今、誰がいますか。今日も皆が笑顔でいられるように心を伝えていくのはいかかでしょうか。